

地域の防災とファシリテーション

鈴木まり子さんに聞きました

ファシリテーションとは、より良い話し合いの進め方のこと。その進行役をファシリテーターと呼びます。女性が地域に入って活動する難しさ、災害や防災の知識がありながら地域ではなかなか生かせない、そんな経験をしたことがある人は多いはず。女性や若い人の力を地域で生かしたい、地元で防災活動をしたい、そんな思いを持っている人たちは、どうしたら上手く地域に参画していけるのでしょうか。(特非) 日本ファシリテーション協会フェローの鈴木まり子さんに、自身の経験に基づいての話を聞きました。

話し合いのある家

私のファシリテーションの原点は子どもの頃。父が視覚障害の人のための点訳奉仕など様々なボランティアをしていました。その関係で、いろいろな人が我が家に来ていました。障害のある人、大学生、子ども達など。市民協働センターなどがない時代で、自宅で会議を開いていた父が、今言うファシリテーターのように話し合いの進行をしていました。子どもだった私は「大人ってこうやって話し合いをするんだな」と見ていました。会社員時代、同僚が、「まり子さんがやっていることは、ファシリテーションって言うんだけど、知っていますか」と言って、中野民夫さんの『ファシリテーション革命』という本を貸してくれました。本の「はじめに」ですでに感動。社会をどう変えていくか、戦わずに話し合いで社会を変えていく、やさしい革命。そんな内容でした。その後、勤めていた人事コンサルタント会社を退職し



【プロフィール】鈴木まり子さん

(特非) 日本ファシリテーション協会フェロー、災害復興委員会、災害支援ネットワークしずおか茶の国会議、静岡県被災者運営に係るアドバイザー、法政大学講師

災害とファシリテーション

て、キャリアデザイン学を深めるために社会人学生として大学に通いながら、ファシリテーションについても学びました。ファシリテーターになろうとは思っていなくて、なりたいたいと思っていたわけでもないんですよ。

私自身、防災との関わりは全くありませんでした。阪神・淡路大震災の後、夫が災害ボランティアコーディネーターとして活動をしていたことも知りませんでした。その後、夫から「災害が必要だからアマチュア無線の資格を取ってくれ」と言われて取りましたが、それでもまだ、災害や防災には全く興味がありませんでした。

東日本大震災が起こってすぐ、日本ファシリテーション協会の会長から「支援活動したい」とメールをもらいました。当時、私は副会長で「災害時にファシリテーションが必要なんだ」という会長の言葉に動かさ

女性が地域で活躍するために

れ、仲間3人でNPO内に災害復興支援室を立ち上げました。日本ファシリテーション協会は1000人以上会員がいる大きなNPO法人です。その割には社会貢献していない、地域に還元できていないと常々思っていたので、ぜひやっただ方が良いと思いました。ただ、被災地で、どのように話し合いを手伝え方がいいのか、分かりませんでした。当時、仙台在住の仲間の一人が、自分のマンションのエントランスに各戸の部屋番号を書いた模造紙を貼って、ペンを用意しました。普段は交流のない住民たちの安否が気になっていたのです。それぞれが書き込む連絡表、それだけのことなんですが、住民たちを安心させたようです。「物資がありますよ」「無事です」とか。これもファシリテーションなんです。話し合いでなくてもいい。「促進する」という意味もありますから。住民の行動を促したことになりますよね。

例えば、女性が防災に目覚めて、問題意識を持つ。地域に目がいつて何と化した方が良いと思う。自治会長の家に行って、自分の思いを熱く語ると嫌われてしまうこともあります。女性防災のリーダー講座では、女性の力が地域には大事だといふけれど、地域では歓迎されない場合が多いのです。地域へのアプローチの仕方が、うまくいっていない例です。

女性の思いが熱ければ熱いほど、知識が

あればあるほど、地域（自治会）では受け入れられにくい。そもそも、地域の自治会や自主防災組織は、仕組みがちりちり出来上がっていて、女性が入り込む隙間がなかなかないので。だから女性たちは、自分たちの地域では活動しないですね。地域の外で活動する人が多いです。これではもったいないですよ。

本当にもつたいないと思うのは、「自治会長をやってみないか」と女性に声をかけると「無理です」と断ってしまう人がいること。勇気を持って引き受けてみてほしいと思います。駿河区の女性の防災ネットワーク駿援隊の一人は、自宅を開放しサロンやイベントを開催していました。そこに自治会長も時々来ていたのですね。そして、今年度はその女性が自治会長をやることになったと。彼女の活躍に期待しています。

成功事例

2018（平成30）年度に開催された静岡市駿河区主催の「するが防災女子講座」は、NPO法人男女共同参画フォーラムしずおかとの協働で開催された講座です。まず、受講生は自治会からの推薦で集めました。自治会長が女性の顔と名前を分かっています。中には動員されて参加した女性もいたでしょう。それと、地域の防災ボランティア団体の女性にも参加してもらいました。キックオフで災害についての勉強。1回目は災害時に役立つ話し合いの作法。上か

ら物を言う高齢男性を、どうやって話し合いに参加させるかなど話し合いの進め方を学びます。2回目はHUG（ハグ・避難所運営ゲーム）をやります。学んだファシリテーションを実践してもらいます。そして3回目は、地域の自主防災会の会長を講座に呼びます。ここが肝心。市役所が声をかけるから、自主防災組織の会長が来ます。自主防災会長は自治会長の役も兼ねている場合も多いですよ。男性側も初めは戦々恐々としています。女性が多い中に男性が少ないわけですから。講座に参加してもらう前に30分、ファシリテーターからレクチャーを受けます。「頭ごなしにいわないでくださいね」って。その後、地域の受講生に混じって、会長たちも防災訓練で行う防災メニューを考えます。会長が勢いでわーっと話をして脱線すると、受講生がファシリテーションで学んだことを実践して話を元に戻す。そんな風に話し合いが進んでいきます。

そこで出来上がった防災メニューを、次に行われる自主防災連絡会の集まりに持って行って、女性防災リーダーである受講生がプレゼンテーションをします。会長たちは自分たちも一緒に話して決めたメニューだから、「けっこういいんじゃないか」とか、「やってもいいんじゃないか」という風に応援してくれます。その後、地域の防災訓練に、実際に取り入れてもらいます。

それがきっかけになって、女性も地域に入っていくことができました。会長自身が女性たちの顔と名前を知っているから、がんばっている、と肯定的に受け取ってもらえ

ています。

次の年は、若い世代のパパママ向け。前の年の受講生が託児や受付などの手伝いに来ることで、世代の違う住民達がつながっていきます。

普段からファシリテーションを

地域での話し合いが普段からうまくいってれば、災害時もうまくいきます。地域のイベントや会合をトップダウンで行っていたら、災害時だつてきつとそうなりますよね。普段から若者、女性、障害のある人など多様な人が入って、フラットな状態で話し合いを行う。険悪な関係にならないよう合意形成して、その話し合いが成功した、という事例を積み重ねていけば、その延長で災害時もうまくいきます。誰でもファシリテーションは使えます。話し合うトレーニングは必要ですよ。「あれから20分経ちますが、まだ10人中3人しか発言していませんが」とか、「今日は決めるんですか？アイデアだけでいいんですか？」とか質問をしてみる。最後に「私はよく分からなかったもので、決まったことをもう一度言ってもらっていいですか」など、進行役でなくても参加者ができることです。

女性は直球が多いから、地域に入っていくのには根回しが大事です。どうやって自治会とうまくつながっていくかがポイントです。これからは、ファシリテーションとオンラインのスキルを持っていると、一気に立場

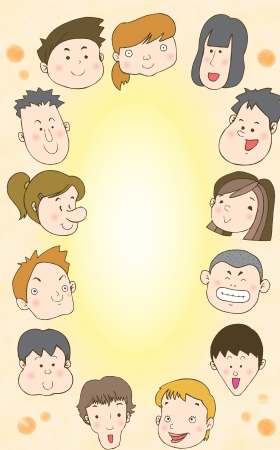
が変わると思います。地域でオンラインが必要になった時、「私、手伝います」と言えますから。画面では上座下座もないし、映り方も違います。「オンラインの場合、ファシリテーターが必要なんです」と言えば、よく分からないけどいいか、となる。どさくさにまぎれてファシリテーションが入っていく。ルールはリアルでも同じなんです。習慣化すれば、ファシリテーションがリアル話し合いの場でも行えるようになります。

最後に

女性が地域で活動することの難しさは、防災に限ったことではないと感じます。既存の仕組の中に入っていくためには、別の方向からアプローチする、丁寧に一歩ずつ進めていくことが大切だとわかりました。男性でも女性でもそれは同じなのではないでしょうか。

地域のジェンダー格差をなくすために、女性も積極的に地域活動に参加していく必要があります。そんな時、ファシリテーションが強い味方になってくれる、そう感じながらインタビューを終えました。

（國井良子）



静岡県地震防災センターにおける 男女共同参画の取組

静岡県 危機情報課 参事 油井 里美さん

静岡県地震防災センターは、東海地震に対する知識・技術の向上や防災意識の高揚などを目指し1989（平成元）年に開館。2020（令和2）年6月に展示内容を一新し、より一層魅力ある施設としてリニューアルオープンしました。同センターが取り組む男女共同参画の視点からの防災について、そして新型コロナウイルス感染症の影響による新たな防災対策について、考えてみましょう。

●センターにおける 男女共同参画の取組

災害時、女性と男性では、生物学的な違い、責任や役割の違いなどにより、直面する困難とニーズはそれぞれに異なります。この違いに十分に配慮された災害対応が行われることで、防災や減災、災害に強い社会の実現が可能となります。

静岡県では、東日本大震災の教訓を踏まえ、2013（平成25）年に「男女共同参画の視点からの防災手引書」を発行し、また、男女共同参画の視点からの防災講座を継続的に開催して、防災における男女共

同参画についての理解促進と、地域防災力の強化につなげています。

2014（平成26）年には、防災に興味を持ち、活動意欲のある女性を中心に、女性の視点から防災を考える場として「なでしこBOSAIパワー」を結成し、「防ぐ」「学ぶ」「楽しむ」「活かす」「発信する」のなでしこ5か条の下、楽しく活動しています。

静岡県地震防災センターでは、男女共同参画の視点からの防災を推進するため、女性用品の備蓄や、避難所における男女共同参画に配慮した運営の必要性を説明しています。また、避難所運営や自主防災活動、防災訓練の取組などで実践されている、防災における男女共同参画の事例をパネルで紹介しています。その他、避難所運営ゲームHUGを通じて、多種多様な避難者の事



展示の様子

情に応じた適切な避難所運営を考えるトレーニングを行い、実際の運営に生かしている。ただ、ただのようアドバイスをしています。

各地域では、防災人材を育成する各種講座に参加した方が中心となっており、女性の視座を取り入れた避難所運営マニュアルの作成や訓練等に取り組む事例も増えています。

自然災害は誰にも起こりうる現象です。皆さんの地域でも防災における男女共同参画の取組を進め、乳幼児、高齢者、障害のある方、LGBTなど多様な方々への配慮について考えていきましょう。

●コロナ禍での防災対策

新型コロナウイルス感染症を踏まえた避難所運営については、県が感染リスクを低減させるための対応策や留意事項を取りまとめたガイドラインを作成しました。各市町では、これを参考に、3密回避、健康状態による入居スペース区分、衛生環境の確保の3つの視点で対策に取り組んでいます。

具体的には、避難所は従来よりも広いスペースが必要となるため、これまでの指定された避難所のほかに、民間所有の施設を利用できるように調整を行っています。また、消毒液や間仕切りなど、感染防止に必要な資機材の準備も進めています。

コロナ禍では新しい生活様式を踏まえた避難生活が前提となるため、皆さんにはぜひ、平常時から自身の生活に合った感染対策を実践していただくようお願いします。

また、避難は、避難所に行くだけが避難ではありません。自宅の耐震性が確保されていたり、ハザードマップを確認して、洪水や土砂災害の危険性がない場合には、自宅に留まる「在宅避難」という方法もあります。その他、知人や親戚宅がそうした安全性が確保されていれば、そちらへの避難を相談されてはいかがでしょうか。

災害時に慌てることのないよう、水や食料を含め、事前の備えをお願いします。



リニューアルした地震防災センター外観

静岡県地震防災センター 利用案内

開館時間：9：00～16：00
入館料：無料
休館日：月曜日、年末年始
〒420-0042 静岡市葵区駒形通5丁目9番1号
電話：054-251-7100
（受付時間：休館日を除く9：00～16：00）
ホームページ：
<http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/e-quakes/>
※見学のお申込み・お問い合わせは電話でご連絡ください。
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、入館制限を実施しており、見学は個人、団体ともに事前予約制としています。（2020年12月現在）



① 『ひとりではじめてアフリカボランティア』

(栗山さやか 金の星社 2015年)

「アシャンテママ」はモザンビークの言葉で“ありがとう、みなさん”という意味。御前崎市出身で渋谷109のショップ店員だった著者が、現地の貧しい女性と子どものために設立した協会の名前です。

親友の死をきっかけにバックパッカーとして世界を旅した後、モザンビークの国立医療技術学校を首席で卒業、医療従事者として働き、現在も「アシャンテママ」の活動を精力的に続ける栗山さん。周りの人の心を動かす彼女の姿に、ただただ圧倒されるばかりです。

② 『#KuToo:靴から考える本気のフェミニズム』

(石川優実 現代書館 2019年)

「私はいつか女性が仕事でヒールやパンプスを履かなきゃいけないという風習をなくしたいと思っているの」。2019（令和元）年1月、#KuToo運動のきっかけになったツイートが発信されました。

彼女のもとに届いたのは、多くの賛同と数えきれないバッシングの嵐。とんでもない言いがかりや侮辱にも、あざやかに平静に切り返し、けしてへりくだらず、正面から怒る。“自分の感情は自分で決める”を実践する石川さんの思いに迫ります。



③ 『すごいお母さん、EUの大統領に会う』

(尾崎美恵 文藝春秋 2016年)

「ママ、EUの大統領に会ってくるわ!」。突然の一言に驚いた長女の書いたブログが大反響! 資金も組織もない“日本の田舎の普通のおばちゃん”が、ひょんなことから四国を海外でPRする事業に関わり、インバウンド事業に乗り出します。

「まず一歩を踏み出し続けていくと、必ず扉を一緒に開けてくれる人が現れます」。うどん、俳句、遍路と四国の魅力を次々に世界に向けて発信し続けるパワーとアイデアに元気をもらえる1冊です。

利用案内

貸出：図書5冊、ビデオ・DVD 2本（2週間）

*貸出カードが必要です。現住所、生年月日を確認できる身分証明書をお持ちのうえ、カウンターにてお申込みください。

開室時間：平日 9:00～18:00
土日祝 9:00～17:00

休室日：第1・3・5日曜日
図書整理日

TEL：054-255-8763
FAX：054-255-8759

④ 『たかくとびたて女の子』

(ラケル・ディアス・レゲーラ作 汐文社 2020年)

パイロット、作家、バイオリニスト、それぞれに夢がある3人の女の子たち。ところが、悪の軍団「ソレハムリ」がこっそりつめこんだ小石のせいで、自分でも気づかないうちに夢をあきらめてしまい・・・。

ソレハムリ軍団がつめこんだ小石の正体は「女の子らしさ」という呪いでした。ふとしたきっかけで小石の存在に気づいた彼女たちは、どうしたのでしょうか？

誰もがきれいなつばさを持っていることを忘れずにいたいですね。



もっと
話そう

これからの性教育

最近、性暴力の防止や、人権を学ぶための性教育が注目されています。

これまでは性について積極的に話すことが敬遠されがちでした。

しかし今は、間違った多くの情報から子どもを守る手段として、性教育が活用され始めています。

性教育が必要とされる社会背景や、静岡県内で性教育に関わる団体・大学の活動を紹介します。

性暴力・DV被害者への 支援が広がる

2020（令和2）年6月、政府は令和2年度から4年度までの3年間を「性犯罪・性暴力対策の集中強化期間」に定めました。被害者支援や再発防止、教育・啓発活動などの観点から方針が取りまとめられ、ワンストップ支援センターの増設などが検討されています。橋本聖子内閣府特命担当大臣（男女共同参画）は、「政府としての決意と方針を示す、最初の一步」と発表しました。今年、コロナ禍での外出自粛により自宅で過ごす時間が増えたことや、生活不安から、DV（家庭内暴力）の増加も大きな問題となりました。6月に全国の配偶者暴力相談支援センターに寄せられた相談は、前年同月比2割増の1万2000件以上。政府は専門の相談員による電話相談の臨時的な実施や、窓口の電話番号を10桁から「#8008」に短縮するなど、支援の充実を目指しています。

声をあげにくい背景とは

性暴力・DV対策強化の背景には、被害者や支援者らが声をあげ続けたことがあります。法務省の昨年度の犯罪被害実態調査では、性被害に遭った人のうち、捜査機関に申告したのは14.3%、DVは11.5%とされています。性暴力やDVでは加害者が身近な人の場合も多く、仕事や学業、生活に支障が

出る不安から、相談をためらう人も多いのです。しかし、相談ができない場合、被害が悪化して心身がさらに危険にさらされたり、後遺症に苦しんだりする恐れもあります。性暴力やDVは、社会全体で取り組むべき課題といえます。

声をあげれば状況が変わる

性暴力もDVも、加害者に責任があります。しかし「女性に落ち度がある（男性の被害は『男らしくない』と言われてしまう）」という、性に基づいた偏見から、暴力が黙認されてしまう現状があるのです。この問題に対し、2017（平成29）年頃から世界中に広まった「Me Too」運動（注1）や、昨年度相次いだ性犯罪の無罪判決への抗議活動がきっかけとなり、対策を求める声が増えてきました。性暴力やDVに対する地道な活動は、裁判のやり直しや性犯罪に関する刑法の10年ぶりの改正、そして今年度の性犯罪・性暴力対策強化やDV対策につながったのです。

しかし、まだ全ての問題が解決されたわけではありません。被害に遭った人が声をあげづらく、法律でも十分に守られない状況は続いています。被害者を助ける団体や場所があっても、支援を必要としている人が情報にアクセスするための知識がなく、支援が得られない場合も多いのです。長期的には、被害後のケアだけでなく、被害そのものを防ぐための対策も必要といえます。

人権尊重のための性教育を

最近、人権や防犯のための性教育が注目されています。性教育といえば、身体や生殖について学ぶイメージですが、実はそれだけではなく、政府の性犯罪対策の方針には、プライバシーゾーン（注2）の知識を含む、子どもへの予防教育も含まれています。性暴力やDVは、誰もが当事者になり得る問題である、という意識を多くの人が持ち、尊厳を守る手段として、性教育が見直されているのです。

正しい知識は、傷つてから学ぶのではなく、幼少期から持っておいた方がよいもの。社会全体に性教育が行き渡り、問題意識を共有できるようにすれば、暴力そのものの抑止にもつながります。被害を防ぎ、自分や大切な人を守る知識を子ども達に伝える手段こそ、性教育なのです。

注1 Me Too運動…2017（平成29）年頃から広まった、SNS等で性暴力被害について訴える運動。多くの人が「#Me Too（私も）」のハッシュタグをつけて経験や思いを投稿し、社会現象となりました。

注2 プライベートゾーン…胸や尻、性器といった水着で隠れる部分や口など、人に見せたり触らせたり、または無理やり見たり触ったりしてはいけない部分。

情報があふれる時代こそ、 知識が子どもを守る

現在の日本では、子どもが学校の授業だけで十分な性の知識を得ることは難しいと言えます。2000年代に性教育への激しいバッシングが起きたことから、性交や避妊といった学習指導要領にない内容は、授業で教えるににくい状況にあるのです。近年では、子どもの実態に合った性教育を求める人も増え、独自のカリキュラムを実践する学校もあります。

しかし、全ての子どもが、先進的な性教育を受けられるわけではないという現状を考えると、家庭での教育が必要といえるでしょう。

現在は多くの子どもが、友達やネットから性の情報を得ていますが、その知識は正しいとは限りません。ネットには間違った情報も多く、AVなどで描写される暴力的な性を正しいものと子どもが信じ、トラブルが起きてしまうことも考えられます。また、SNSを利用した子どもへの性犯罪も、年々増加傾向にあります。

「知識を持てば、子どもが性的なものに興味を持つてしまうのでは」と心配する意見も多いようですが、実は知識こそが子どもを守るのです。性教育に力を入れるオランダでは、15歳の性体験率が他の先進国と比べ低いことが報告されています。性教育は、意図しない妊娠や感染症を防ぐだけでなく、興味本位での性行動を遠避け、自分や相手の心身を大切にする気持ちを育てるのです。

さらに、知識があれば、困ったときも相談しやすく、支援を受けやすくなります。子どもの権利条約では「心身の健康の促進を目的とした情報及び資料へアクセスする権利」が認められており、子どもには性を学ぶ権利があるとされます。身近な大人が正しい情報を伝えることは、子どもの性の健康と安全を守る近道なのです。

包括的な性教育とは

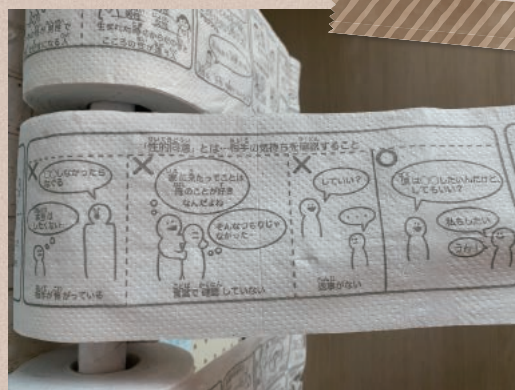
最近では、身体や生殖だけでなく心理的、社会・文化的な面、さらに人権としての性を学ぶ「包括的な性教育」が注目されています。人間関係や防犯、ジェンダーの理解といった、従来の性教育より広い範囲をカバーした内容です。

子どもが成長し、他者との関係を築き生きていく中で、自己決定が必要な場面はいくつもあります。恋愛、結婚、出産など、する・しないに関わらず、自分の納得できる決断をする上で、性の正しい知識は不可欠。性を学ぶことは、将来の人生設計を考えるきっかけにもなります。包括的な性教育は、子どもが自分らしく安全に生きていく助けになるのです。



(袴田くるみ)

トイレから性教育を 「Sowledge」性教育トイレットペーパー



性教育の普及によって性暴力

の問題に取り組む一般社団法人「Sowledge（ソウレッジ）」では、2019（令和元）年に、性の知識をプリントしたトイレットペーパーを開発しました。体の仕組みや性被害への対処、LGBTといった情報やイラストは専門家の監修によるもの。本やネットよりも手軽に、多くの人に性の知識を伝えたいという思いから作られました。個室で安心して学ぶことができるのも特徴です。

代表の鶴田七瀬さんが製品開発を行った背景には、性被害に遭った子どもの多くが一人で抱え込んでしまうという現実があります。子どもの安全を守るためには、社会全体の知識水準を上げていくことが大切。トイレットペーパーを学校や児童養護施設へ普及させ、子どもが相談しやすい環境を整えることを目指しています。

「Sowledge」は「Sow（種を蒔く）」と「Knowledge（知識）」を組み合わせた造語。知識のタネをまくことで、子どもが性を学ぶ最初の一步を作っています。



鶴田七瀬さん

一般社団法人 Sowledge 代表。大学在学中に性教育不足に危機感を持ち、性教育の活動を開始。静岡県出身。Sowledge ウェブサイト <https://sowledge.org> 性教育トイレットペーパーはウェブサイトから購入できます。

日常生活に性教育を 家庭で「性」と向き合うには

おもしろ健康教育研究所 伊藤純子さん・高橋佐和子さん

『知らないことには、思いやれない』をモットーに、家庭や学校向けに健康講座を開催する、おもしろ健康教育研究所（以下『おもけん』）。中高生対象の性教育講座は、子どもたちが恥ずかしがるヒマもないくらいに楽しく、そして真剣に参加できると全国で好評です。所長で「健康脚本家」の伊藤純子さんと副所長で「健康女優」の高橋佐和子さんに、性教育の必要性や家庭で教える際のヒントを聞きました。

楽しく性教育を教える理由

高橋 『おもけん』の性教育講座では、伊藤さんが司会役、私がDJや中学生男子の役で登場し、テレビ番組のような雰囲気でお話をします。

性教育の授業は、ソワソワしたり恥ずかしがったりする生徒が多く、興味があっても一生懸命話を聞きづらい空気になってしまいがちです。だから、最初は音楽やキャラクターで注目を集め、笑わせることで緊張をほぐすようにしています。

伊藤 本題に入れば、どの子も真剣に話を聞いてくれますよ。子どもは大人が思うより真剣に性に向き合っています。性の話をするには、子どもたちからの信頼が必要なので、私たちは壇上から降りてガチンコで話

をするようにしています。

高橋 建前じゃなくて、本気でやろうぜ、と。ユーモラスに話すのは、ただ笑わせるためではなく、子どもと同じ目線に立ち、信頼してもらおうための方法の一つです。

伊藤 性については、個人差が大きい問題や、人によって考え方が違う部分もたくさんあります。家族や友人からの評価を気にする子も多いですが、本当に大切なのは自分が納得できる答えを、逃げずに見つけること。子どもの多様性を大切にしながら、一緒に悩んで、自分だけの答えを見つける機会を提供することが私たちの仕事です。

今 必要な性教育とは

伊藤 性は子どもにとってこれからの生き



中学生向けの性教育講座。伊藤さん演じるアナウンサー（右）と高橋さん演じるDJ Sawako（左）の対話形式で性の悩みに答えます

方に関わる大事なことです。だからこそ、ネットではなく信頼できる人から教えてもらうべきですね。最近では、ネットで過激な知識をたくさん得ている一方、現実の性に対してはとても繊細な感性を持つ子どもも多く、性を気持ち悪いものと捉えてしまう子もいます。教育でも、こうした繊細な部分に寄り添えたらと思います。

フランスなど性教育の先進国では、人と人の関係の学び「コミュニケーション」という土台を作ってから「人権」を学び、その上で「性」を学ぶという包括的性教育が行われています。性の話は人間関係や人権の土台の上に積み上げていくものです。

他の人と性について対話をして、自分と相手の考えとのギャップに気付くことも大事な学びです。『おもけん』では、恋愛や性について考える10代向けの教材として『アオハルすごろく』を制作しました。普段あま

り話す機会のない性の問題も、このゲームでなら間違いを恐れず安心して話し合えますよ。

高橋 本来、性はとてもプライベートなこと。対話をする場合も「安全なところで、信頼できる人」というのが前提です。

思春期の子どもに 家庭で性教育をするための心得

高橋 性は専門家だけの問題ではなく、みんなが知っておくべきこと。子どもが困ったときに大人に相談できないと、感染症や妊娠など、深刻な問題への対応が遅れてしまう可能性があります。親子で正直に話しあえる関係性を作っておくことが必要です。

伊藤 でも、普段から何でも話せる関係でない場合、性教育を家庭でするのはもつと大変ですよ。性のことが分からない思春期の子どもは、親が驚く言動をすることがあります。いきなり叱るのではなく、まずはなぜそう思うのか子どもの意見を聞くこと。思春期は揺れ動く時期なのだと分かてあげられると良いですね。ありのままを受け入れ、話ができる関係性を作ることからスタートです。



10代向けの教材「アオハルすごろく」。楽しみながら性について対話することができます

高橋 特に子どもが異性の場合は、親としても性教育が難しい部分もありますよね。だからこそ、性への抵抗感が少ない幼少期のうちから教えていくことが重要です。面と向かつて話にくいときは、信頼できる本やサイトを教えるだけでも違うと思います。今の時代は、情報を見分ける力を付けることも重要ですが、すぐに身につくものではありません。まずは正しい情報に誘導してあげることから。

性暴力やDVを防ぐために

伊藤 DVは決して許されないこと、暴力を振るう人には治療が必要なことは、講座でもはつきり言うようにしています。自分が当事者でなくても、家庭で暴力を目撃したり、友達が当事者だったりということもあり得ます。その時に子どもが「これはDVだ」と、気づくことができる知識を持たせなければなりません。

高橋 性暴力は、年齢に関わらず誰もが被害者になり得る問題です。プライベートゾーンのこと、生まれた時から子どもに色々な場面で意識させる必要があると思います。言葉がまだ分からない時期も、体を隠したり、身振りや感覚で伝えたりして教育を積み重ねる必要があります。

伊藤 これは人権教育にもつながりますよね。自分の「嫌だ」という感覚は間違っていないのだと、子どもが認識できることが必要です。性暴力は、性的に成熟した人だけに起

こる問題ではないのです。

既に子どもが思春期の場合でも遅くはありません。恋愛や性に興味を持ち始めるタイミングこそ、「同意」を学ぶとき。恋愛って何だろう、人の嫌がることはどんなこと？と、親子で考えてみても良いですね。これまで性教育を行う機会がなかった場合でも、思春期は人権についてとらえ直すチャンスです！

性教育から考える男女共同参画

伊藤 『おもけん』の講座は、子どもの性別に関わらず基本的に同じ内容です。男女が一緒に同じ話を聞くからこそ共感できることもあります。

最近では家族の人数が少ない家庭が増え、異性の身体のことを知る機会も減っています。でも、将来を考えたら知識はあった方が良いですね。性教育は、パートナーを大切にするための知識でもあります。生殖や体の科学は、男性も女性もお互いに知っておくべきことです。知らないことには思いやれない。パートナーだけでなく、仕事の仲間や家族も、みんなが知っておくべきことですよね。

高橋 子どもが日常で性に触れる機会をちりばめておくとう良いですね。スーパーに行った時に、ナプキンを買うところを子どもに見せても良い。「卵や野菜を買うのと同じようにナプキンも買うんだ」と教えれば、当たり前のことになるでしょう。性の知識は、一度や二度習っただけでは身につきません。学校生活でも「男子は／女子はこうあるべき」

という考えが、あらゆる場所に潜んでいます。最近はこのように場面に疑問を持ち、声をあげる生徒も増えていきます。日常にこそ、学ぶチャンスはたくさんあります。

伊藤 『おもけん』では、性別関係なく性の話をして良いのだ、というお手本を見せるために私たち女性が話をしますが、男子校で話すときは男性の講師を呼ぶこともあります。同性の大人がいると男の子も安心できる部分もあり、質問しやすいようです。

最近では「イクメン」という言葉が流行したように、男性の育児を当たり前にしようという流れがあります。

高橋 おむつ替えや育児の取得はもちろん、父親も性教育を当たり前にできるようにすると良いですね。性教育は、育児をしているれば関わらざるを得ないものですから。男の子に体の洗い方を教えるとか、父親だからこそできることもあるはず。

メッセージ

伊藤 日常の中に性教育のチャンスはたくさんあります。対話できる関係、子どもとのコミュニケーションを大切に。親の心構えとしては、子どもの考えを流さず聞いてあげることです。子どもは思春期に揺れ動くものですが、そうした変化に親も戸惑いを感じると思います。でも、ここは親自身も成長するところです。

高橋 我が子も大人になってもらわなくて、と割り切つて、ドンと構えることも必要

になってくるでしょう。子どもを社会に送り出す覚悟がなければ、性教育は始まりません。**伊藤** 今の学校教育は過密で、性教育をすぐに充実させることは難しい状態です。その分、家庭や地域全体で教育を行っていく必要があります。私たちのような、性や健康のことを教えている団体もありますので、そうした社会資源を活用することも一つの方法です。**高橋** 地域の子どもは地域で育てていきたいと思います！

(袴田くるみ)



伊藤純子さん (写真左)

所長 / 健康脚本家 (聖隷クリストファー大学看護学部 公衆衛生看護学 助教)

高橋佐和子さん (写真右)

副所長 / 健康女優 (神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部看護学科養護教諭課程 准教授)

<https://www.omoken-works.com/>

一般社団法人おもけん健康教育研究所「健康教育を居眠りする暇がないくらい楽しい学びの場にしてしまおう!」という思いから2010(平成22)年に活動開始。出張講座は小中学校や高校、大学から保健医療職、教職員向けまで150か所以上で開催。子育て支援や介護予防、性教育やメンタルヘルスなど、幅広いテーマで学びの場を提供しています。ウェブサイト